

加藤周一現代思想研究センター

Research Center for Shuichi Kato and Japanese Contemporary Thought



加藤周一の知の世界の全容解明・社会への発信と国際的知識人の育成

加藤周一現代思想研究センターは、加藤周一文庫に収められた膨大な蔵書と遺稿類に基づく研究およびそこで得られた知見の社会への発信・活用、加藤のような国際的知識人の育成をその活動目的としています。

研究センターには、学内外から政治思想史、日本文学史、文化人類学、ジャーナリズム論、フランス思想・文学等の研究者が集い、加藤周一の知の世界の全容解明とその発信を行ってきました。

国際的に活躍し、かつ国際的に評価される研究者・知識人を育成することは、21世紀日本が抱える最大の課題の一つです。この課題に取り組み、実現するには、20世紀日本



にあって国際的に活躍し、評価された先人に学ぶのがもっとも有効な方法です。そういう人物のひとりに作家、評論家であった加藤周一がいます。

立命館大学は、2011年、加藤周一の蔵書・手稿・資料等を御遺族から御寄贈いただき、加藤周一文庫の創設を全学的事

業として進めてまいりました。本研究センターにおけるプロジェクトは、これら寄贈資料を研究材料とし、国際的知識人加藤周一の全容を明らかにしています。

具体的な研究は2つのグループに分かれて進めています。

研究テーマの例

● 戦後日本の知識人とコスモポリタニズムの研究

1) 基盤研究グループ「加藤周一文庫を基盤として」

近現代日本思想史、文化人類学、近代文学、フランス思想哲学、ジャーナリズム論などに専門領域をもつ研究者が、お互いの垣根を越えて、21世紀日本の知識人に求められる国際性をいかに獲得するかについて学際的研究を行っています。

2) 研究成果活用グループ「加藤周一文庫デジタルアーカイブの活用」

戦後日本を代表する国際的知識人、加藤周一の未発表「手稿ノート」のデジタルアーカイブ化が図書館によって構築されており、70冊に及ぶ未発表ノートの分析を通して、加藤周一の理解を深めます。

■ 加藤周一について

加藤周一（1919－2008）は、戦後日本を代表する国際的知識人であり、洋の東西にわたる視野のもとに、日本文学史や日本美術史の研究を行いました。海外で翻訳された著書は50冊近くにのぼり、代表作である『日本文学史序説』は八カ国語に翻訳され、海外の日本研究者にとっての必読文献となっています。本学との関係では、国際関係学部で客員教授、立命館平和ミュージアムの初代館長を務めました。



加藤周一 氏

■ 加藤周一文庫について

加藤周一が遺した膨大な蔵書、ノート、資料は、御遺族によって本学に寄贈され、本学衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館内の「加藤周一文庫」に収められ、一部、一般公開を行っています。



加藤周一文庫 常設展示

■ 東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センターとの協力協定について

20世紀の国際的知識人である丸山眞男氏の御遺族により寄贈された多くの蔵書・ノート・草稿類を所蔵する東京女子大学丸山眞男文庫を運営し、所蔵資料の整理及び調査研究を進めている東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センターと加藤周一現代思想研究センターとの間で、2017年度に協力協定が締結されました。この協定では、(1)丸山眞男、加藤周一の思想研究の発展ならびにその成果、意義の社会的発信、(2)文庫の運営、文庫資料のデジタルアーカイブ化に関わる構築作業および研究における知識や技術の共有および発展研究を目的に、講演会、研究会や人材交流を行っています。



「東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター」との共同企画展示



センター長：加國 尚志(文学部 教授)

主な研究拠点：衣笠キャンパス

お問い合わせ：立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス 加藤周一現代思想研究センター事務局 TEL: 075-465-8225 FAX: 075-465-8342

✉: rcsk@st.ritsumeikan.ac.jp http://www.ritsumeikan.ac.jp/research/center/kato_shuichi/

